

第7 み言葉を伝える

【暗唱聖句】

「そのように、わたしの口から出るわたしの言葉もむなしくはわたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ、わたしが与えた使命を必ず果たす。」イザヤ書 55章 11節

【日曜日・神の言葉の象徴】

聖書の御言葉は様々なものに例えられ、聖書が持っている特徴が教えられています。詩篇 119:105 では、「あなたの御言葉はわたしの道の光、わたしの歩みを照らす灯」とあり、御言葉を光にたとえて、私たちが人生の闇の中をさまようことなく歩くことができるものとして描かれています。また、エレミヤ 23:29 では、「このように私の言葉は火に似ていないか。岩を打ち砕く槌のようにではないか、と主は言われる」と、御言葉を火あるいはハンマーにたとえ、心の中の不純物を焼き尽くして清め、高慢な心を打ち砕いて謙遜にする力があることを教えています。さらに、ルカ 8:11 では、「…種は神の言葉である」と、御言葉を種にたとえ、時間をかけて成長し、やがて実を实らせるものであることを現わし、マタイ 4:4 では、「人はパンだけで生きるのものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」とのイエス様の言葉から、私たちが生きていくために必要なものとして教えられています。

【月曜日・神の言葉の創造の力】

「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられます」ヘブライ 1:1~3

旧約時代には、神は預言者を通して語られました。イエス様がこの地上に来られた際には、イエス様を通して直接神の言葉を聞くことができました。イエス様は父なる神の栄光の反映であり、本質の完全な現れであったからです。今日私たちは、聖書を通して神の生きた言葉を聞くことができます。神のみ言葉がどれほどの力を持っているのかは、次の聖句が明らかにしています。

「御言葉によって天は造られ、主の口の息吹によって天の万象は造られた」詩編 33 編 6 節

「主が仰せになると、そのように成り、主が命じられると、そのように立つ」詩編 33 編 9 節

【火曜日：神の言葉を研究することの恩恵】

み言葉を研究することの恩恵は、計り知れません。ペトロは「神の本性に預からせていただくようになる」（第二ペトロ 1:4）と述べ、ヤコブは「あなたの魂を救うことができる」（ヤコブ 1:21）と言っています。また、パウロは、「あなた方を造り上げ」（使徒 20:32）、「イエス様のように変えられる」（第二コリント 3:18）と教えています。エレン・G・ホワイトも次のように語っています。

「眺めることによって変化するということは…1つの法則である。心はいつも考えていることに次第に順応するものである」（希望への光 P1868）

【水曜日・神の言葉を実際に用いる】

聖書の中には 3,000 もの神の約束があります。たとえば、第一ヨハネ 1:9 では、「自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます」と、罪の赦しを約束しています。また、フィリピ 4:19 では、「わたしの神は、御自分の栄光の富に応じて、キリスト・イエスによって、あなたがたに必要なものをすべて満たしてくださいます」という約束もあります。これらの約束の言葉

が、自分自身の人生の上に実現するためには、これらの御言葉を実勢することが大切です。ただし、信仰がなければなりません。ヘブライ 4:2 には、「彼らには聞いた言葉は役に立ちませんでした。その言葉が、それを聞いた人々と、信仰によって結び付かなかったためです」とある通りです。

【木曜日・御言葉を伝える】

私たちが御言葉を伝えたいくなるのはとても自然なことです。ペテロは「わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです。」(使徒 4:20) と言いました。福音を知った喜びを秘密にしておくことなどできなかったのです。パウロは、「わたしは、ギリシア人にも未開の人にも、知恵のある人にもない人にも、果たすべき責任があります。それで、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を告げ知らせたいのです」(ローマ 1 章 14、15) と、福音を伝えたいだけでなく、伝えることは自分の責任であるとまで言っています。

また、テモテへの手紙二 4 章 2 節では、「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです」と教えられています。しかし、いったい何を語ったら良いのでしょうか。すると、何を語ろうかと心配する必要はないことを聖書は教えています。

「主なる神は、弟子としての舌をわたしに与え、疲れた人を励ますように言葉を呼び覚ましてくださる。朝ごとにわたしの耳を呼び覚まし、弟子として聞き従うようにしてくださる」イザヤ 50:4